

事業内容説明写真

(ア) 有機大麦・小麦の栽培、製品作成指導



小麦の農地に有機肥料を散布する裨益者。降雨量や育成状況を踏まえ、有機肥料による追肥を行った。(2013年2月)



日本人有機認証専門家(左から2人目)によるワークショップの様子。JASの有機認証制度を参考に、有機認証の申請に際して必要となる基本的な知識を学んだ。(2013年4月)



小麦の収穫の様子。悪天候等により、全体の収穫量は想定を下回ったが、穀粒のサイズはしっかりしており、対応策として実施した灌漑や追肥については一定の効果が見られた。(2013年6月)



製品化した小麦粉。関係団体を通じて、フェアトレードショップや、ラマダン用のキャンペーンで販売された。(2013年8月)



今後の栽培計画に関するミーティングの様子。大麦小麦のコンポーネントでは、地元の農業組合が中心となって裨益者をまとめている。(2013年11月)



雨期を前に麦の種を撒く様子。(2013年12月)

(イ) 家庭有機農業（P C農法）の導入



裨益者選定のため、参加希望者の家庭を訪問する NICCO 現地スタッフ(左)。1 件ずつ家庭を訪問して、家庭環境や参加意欲の確認を行った。(2013 年 4 月)



協力団体が運営する有機農場を視察する NICCO 現地スタッフ(右)。有機農法の実践経験を有する団体や個人と、積極的に意見交換を行い、菜園運営の参考にする。(2013 年 5 月)



灌漑設備の設置の様子。現地農業技師の監督の下、周辺環境に応じて、限られた土地を有効に利用できるようレイアウトする。(2013 年 5 月)



有機農業に関するワークショップの様子。有機認証の取得プロセスや、家庭菜園で有機栽培を実践するにあたっての基礎知識を学んだ。(2013 年 6 月)



苗木の配布の様子。現地農業技師(左)が各菜園を 1 件ずつ訪問し、作付けの手順や適切な灌漑方法についてきめ細かな指導を行う。(2013 年 6 月)



現地農業技師(左)による訪問栽培指導の様子。定期的に各菜園を訪問し、作物の育成状況を確認する。(2013 年 8 月)

(ウ) 女性を対象とした加工食品作成技術の指導



フェアトレードに関するワークショップの様子。加工品の販売や認証プロセス等、フェアトレードに関する基礎知識を学んだ。(2013年6月)



パレスチナ経済省の主催によるワークショップの様子。女性グループの収入創出活動における公式な手続きや、政府による支援体制等について情報を収集した。(2013年6月)



家庭菜園で収穫したトマトを使用した、サンドライトマト作りのワークショップの様子。(2013年9月)



小麦を使用した中東の伝統的な加工食品マフトール(クスクス)作りのワークショップ。(2013年9月)



大麦を使用したハーブティーのサンプル。家庭菜園で栽培を予定しているハーブ等を使用し、講師と意見交換を重ねながら作成した。ワークショップで加工法の指導を行った後、生産を行う。(2013年11月)



家庭菜園で栽培可能なハーブや野菜を使用したクッキーやマフィンのサンプル試食会の様子。どのようなレシピが受け入れられるか意見を交換し、ワークショップで作成する品目を皆で選ぶ。(2013年11月)